

カートリッジの交換方法

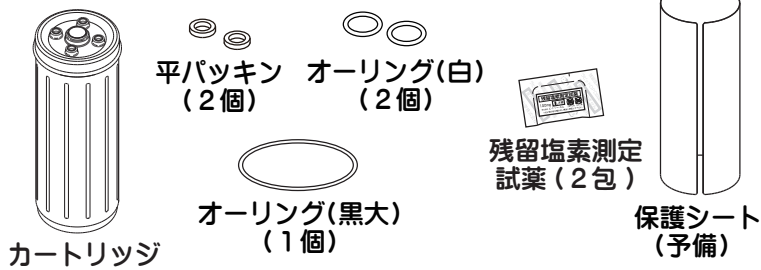


アンダーシンク型

π WATER SYSTEM PRODUCED BY ACM

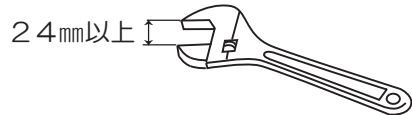
カートリッジの交換方法

セット部品



必要な工具 〈ご準備ください〉

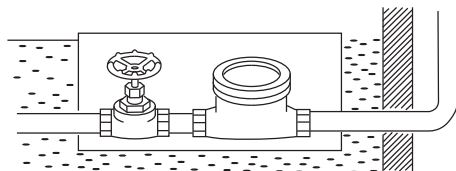
24mm以上開くモンキーレンチをご準備ください。



(1) 水栓を閉めて本体を外します

- ① シンク内水側水栓、湯側水栓を閉めて、流し台水栓を開けて水が出ないことを確認します。

シンク内水栓が見あたらない場合、水道メーター横の元栓を閉めてください。その後、流し台水栓を開いたときに水が出ないことを確認してください。



- ② モンキーレンチを使い、本体からベンリフレキを外します。



取り外す時に、配管の水が出ますのでタオル等で拭き取ってください。

(2) カートリッジを取り出します

- ① バンドのつまみを回してバンドを外します。



バンドをゆるめる時に本体から水が出ますので、作業は流し台で行ってください。

- ② ステンレスカバーを持ち上げてカートリッジを引き出します。ステンレス胴体に入った水は出してください。
- ③ ステンレスカバーの内側中心にセットされているオリング(白)を2個交換してください。

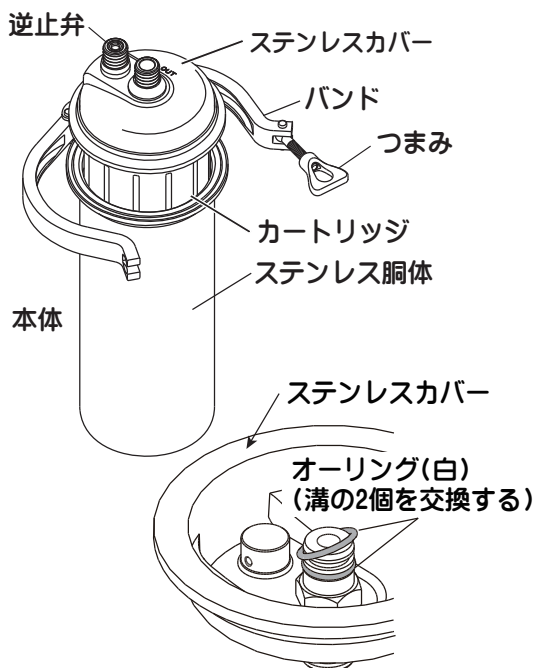
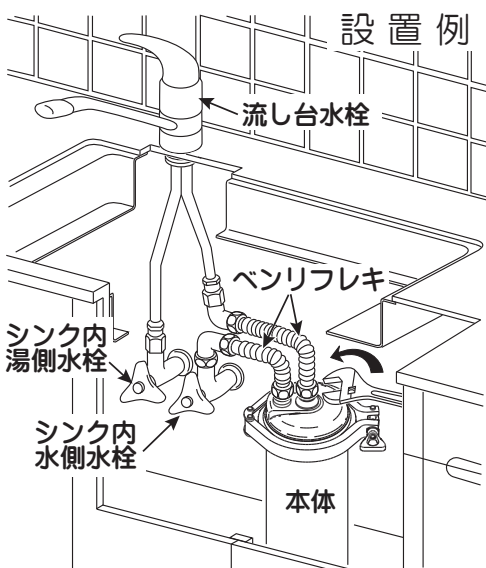
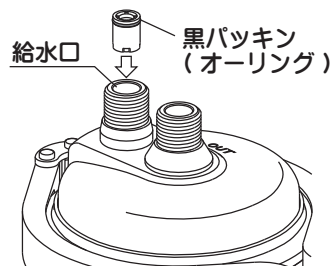


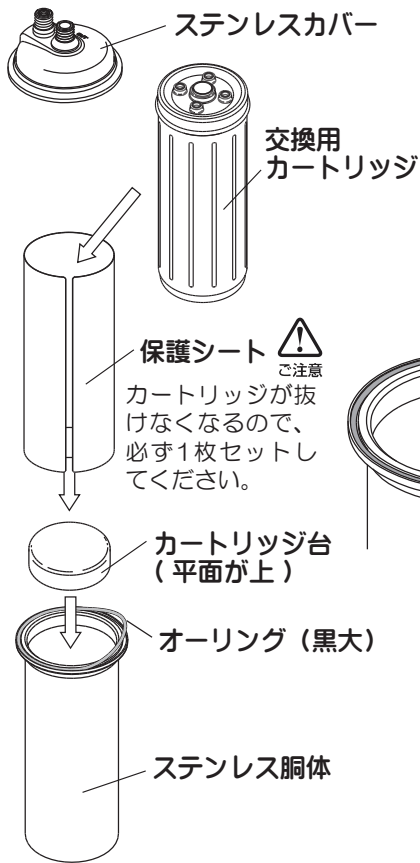
逆に通水するとカートリッジが破損して、活性炭等の濾材が流出するため、給水口には逆通水を防止する弁がセットされています。



逆に接続すると水が出ません。正しく接続してください。

逆止弁が外れた場合は、給水口に黒パッキン(オリング)を上側にして、差し込んでください。





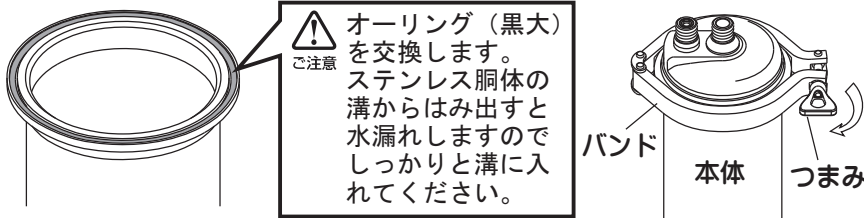
(3) 交換用カートリッジを本体にセットします

ステンレス胴体内の底にカートリッジ台の平面を上に向けて入れてから保護シートを入れて、交換用カートリッジを差し込んでください。

ステンレス胴体上部の溝に新しいオーリング（黒大）をセットしてください。このとき、溝やパッキンにゴミ等がないようにセットしてください。

(4) ステンレスカバーをバンドで固定します

ステンレスカバーを真上から押し込んでバンドをセットし、バンドのつまみを回して、しっかりと締めて完了です。



(5) ベンリフレキに本体を取り付けます

- ① 水側配管のベンリ管エルボに取り付けたベンリフレキを、本体上部の中央（OUT）ネジにモンキーレンチを使い取り付けます。
- ② シンク内水側水栓のナット付ベンリ管エルボに取り付けたベンリフレキを、本体上部の外側ネジにモンキーレンチを使い取り付けます。

ベンリフレキの取り付け箇所から水が漏れる場合には、同梱されている平パッキンと交換して、ご使用ください。
※平パッキンを二重にセットすると水漏れの原因になります。

※シンク内水側水栓に取り付けたベンリフレキを逆の本体上部中央（OUT）に取り付けると、水が出ません。

(6) 本体に通水します

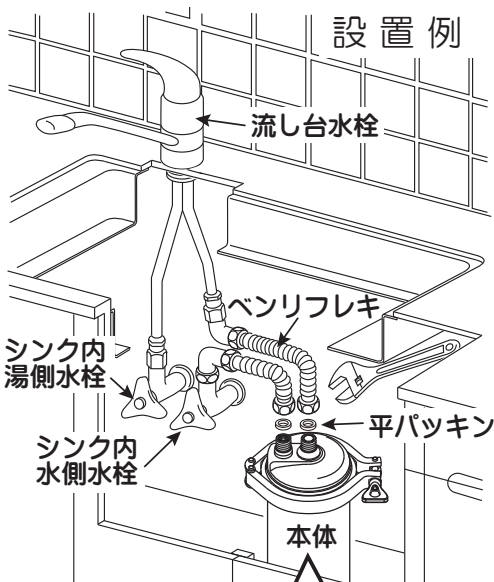
- ① 流し台水栓が閉まっていることを確認してから、シンク内水側水栓をゆっくり開いてください。

※ベンリ管エルボやベンリフレキの取り付け時に、平パッキンがセットされていないと水が吹き出しますのでご注意ください。

- ※水道の元栓を閉めて取り付けされた場合、水道の元栓を開けてください。
- ② 流し台水栓を少し開けてエアを抜き、水が出てきたら全開にて約2分間放水します。

※使い始めに活性炭の黒い微粉が浄水に若干混入することがあります。その時は微粉末がでなくなるまで（5分程度）通水してください。

- ③ 放水後、流し台水栓を閉めて、シンク内湯側水栓を開けます。



※本体は縦て設置してください。倒して使用されると、原水が浄水されませんのでご注意ください。

※交換後のカートリッジは、お住まいの不燃物処分方法にしたがって処分してください。

(7) 水漏れの点検を行います

- ① 接続した部分を、タオル等できれいに拭いてください。
- ② 放水後、流し台水栓を閉めてシンク内湯側水栓を開けて、本体に圧力が加わった状態にしてから、ベンリ管エルボ・ベンリフレキ・本体の接続した各ネジ・ナット部分からの水漏れが無いことを確認してください。
点検には、ティッシュペーパーを使用しますと、わずかな漏れもチェックできます。

◆水の検査 (残留塩素測定試薬 使用)

これは、本体が正しく取り付けられているかを確認する検査です。

混合水栓に取り付けられた場合、水側にして約20秒放水後、コップに水をとってください。

*温水が混ざると正しく検査できませんのでご注意ください。

確認方法

- ① コップに浄水後の水(約50cc)を取ります。
- ② 付属部品の残留塩素測定試薬を1袋加えます。
- ③ かき混ぜて、無色透明であることを確認してください。

(判定は1分以内で行ってください。)

残留塩素測定試薬は、水道水の中に含まれている残留塩素の有無を測定する試薬です。塩素が残留していると水はピンクに変色します。

※但し、1分以上置くと塩素が無い状態でも変色します。ご注意ください。



ご注意

- 試薬は直射日光を避け、なるべく湿気の少ない涼しい場所に保管して下さい。
- 品質保持のため、袋はご使用直前に開封して下さい。
- 試薬が変色したものはご使用にならないで下さい。(保管状態により、試薬が白色から変色してしまうことがあります。)
- 検査後のコップの水はすみやかに捨てて、コップはよく洗ってからご使用下さい。
- 残留塩素測定試薬および残留塩素測定試薬の入った水は、飲まないように注意して下さい。
- 試薬が手や皮膚についた場合は、よく洗い流して下さい。
- 万一、目や口に入った場合は、よく水洗いした後、医師にご相談下さい。
- 乳幼児の手の届かない場所に保管して下さい。

家庭用品品質表示に基づく表示

品 名 : RA-500

材料の種類 : 浄水器本体 / ステンレス カートリッジ / ポリエチレン、ABS

ろ 過 流 量 : 4.0リットル / 分

ろ材の種類 : 活性炭

使用可能な
最小動水圧 : 0.05 MPa

浄 水 能 力 : 遊離残留塩素 総ろ過水量44,000 L (除去率80% JIS S 3201 試験結果)

カートリッジ交換 : 2年 (1日60リットル使用した場合)

使用上の注意

- ご使用は、水(飲料水適合)だけにしてください。お湯を通したとき、臭いの成分が浄水に混ざる場合がありますので、ご注意願います。短時間の通水であれば、問題ありません。
- 凍結の恐れのある場所ではご使用できません。寒冷地の場合は、凍結防止の処置が必要です。
- 水道圧0.5MPa以下でご使用ください。0.5MPaを越える場合、減圧弁を給水側に取り付けてください。
- 本体は縦で設置してください。倒して使用されると原水が浄水されませんのでご注意ください。
- 朝、最初に使う場合は、約1分間の捨て水をしてください。
2~3日使用されなかった場合は、約2分間位の捨て水をしてください。
- カートリッジ交換は、使用水量、水質、水圧により異なります。井戸水、赤水等で適度に汚れた水道水、並びに全量方式(水道給水の全量を浄化する方式)ではカートリッジの浄化能力が極端に短くなります。
- 受水槽・高架水槽・配管等の清掃、水道工事の際には大量の赤さび、ゴミ等が発生することがあります。このような時は、水道水をしばらく放水し、溜りが消えてからご使用ください。
- 浄水した水はできるだけ早く使用して下さい。
- 金魚や熱帯魚には使用しないでください。
 - ・水質の違いにより適さない観賞魚がいるため。
 - ・カートリッジの寿命付近でカルキ(残留塩素)の除去が不十分な場合は、魚が死ぬ恐れがあるため。
- 詳しくは取扱説明書をご覧ください。

株式会社 エイ・シー・エム 東京都墨田区両国 4-8-10 MYSビル 3F

※品質表示法に基づく浄水能力表示において除去率80%以上のものはすべて「除去率80%」と表示することになります。